

第3代鶴岡市長 皆川治市政 始動



鶴岡市長 皆川 治

鶴岡市民の皆様へ

私は、鶴岡で生まれ、高校生まで、家族、友人、地域の方々と、この豊かな自然と調和し、歴史と文化の薫る誇るべきまち・鶴岡で過ごしました。大学進学後は、東京、福岡、米国シカゴでの十七年間の公務員生活を経て、三年前に家族四人で故郷に帰って来ました。

市長として、故郷の発展のため、対話を重視し、これまで培ってきた経験を活かし、また、子育て世代の代表として、鶴岡が抱える課題に真正面から取り組みたい、と考えています。

若者の地元定着、地域医療福祉、旧町村の活性化など、課題は山積しています。これに対応するための政策を、できるものから順次実行に移していく必要があります。予算のみならず、税制、制度等の政策手法を総動員し、市民の皆様にもその実行過程の透明性を確保しながら、分かりやすく、理解を得ながら進めて行きたいと考えております。

私は、国家公務員として、長く不偏不党で

仕事をしてきました。住民に最も身近なサービスを提供する市町村行政において、特定の政党に依拠して政策を立案し、実行する必要はないと考えています。様々な思想・信条を持つ市民がおられる中で、まちづくり、教育、医療、福祉、観光、農業など、市が提供する市民サービスに、党派の争いを持ち込む必要はありません。私の政策、考え方を丁寧に説明し、賛同いただける方々の支援を募り、いわゆる「市民党」の市政を進めていきます。

市の職員にも、市民に奉仕するという原点に立ち返り、市民の声をよく聴いて政策の企画・立案、実行に当たること、「公平・公正な市政」、「最少の経費で最大の効果」など、行政の原則を今一度確認するよう私の思いを伝えたいところです。

私は、対話と協働を掲げてきました。市民や議会との情報共有が不十分なために問題が大きくなった例もありました。課題の解決のためには市民の皆様への知恵、力を借りなければなりません。チームメイトはもちろん、ライバルを含む全ての関係者に敬意を払う心（リス・ペクト）を持ちながら、様々な立場の市民が自由闊達に意見を出し合える、しがらみを超えて堂々と市政について議論ができるようにしていきたいと考えています。人口減少に正面から向き合い、子育て世代に選ばれらるまち、旧鶴岡市と旧町村が共に発展するまち、高齢者も障害者も安心して暮らせるまち、すなわち「市民が幸せだと思えるまち・鶴岡」を実現するため、各般の施策を展開して参ります。

「対話と協働」の まちづくりに向けて

10 / 23 「対話と協働」の新市政 初登庁・市長就任挨拶

大勢の市民や市役所職員に迎えられ初登庁。市長就任挨拶では、職員に向けて「公約の実行」「市民党の市政」「市民に奉仕する市役所への原点回帰」の3点を伝え、「対話と協働」による市政運営の重要性を述べました。



10 / 30 鶴岡にさらなる雇用を 鶴岡市企業懇談会へ出席

鶴岡商工会議所会頭、出羽商工会会長とともに、市内に工場などがある首都圏の企業約30社の経営者等と懇談しました。企業からは業況報告があり、市に対する要望などが出されました。この懇談会の内容を踏まえ、今後の雇用対策等を検討していきます。



11 / 1 友好と信頼の輪を広げるために 友好都市・江戸川区を表敬訪問

昨年、友好都市盟約35周年を迎えた江戸川区を訪れました。大勢の区役所職員の温かい歓迎の後、多田正見区長と懇談。盟約締結の機縁となった学童疎開や、毎年本市も参加している江戸川区民まつりなどの話題で、両市の友好の絆を確認し合いました。

